臺灣新報 第二万四千九百三十四號 昭和十六年十月五日（日曜日）（第二種）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

臺灣昌新報

夕刊 十月四日 第二部一張 夕刊

機甲部隊續々渡河
皇軍鄭州を攻略
敵牙城に日章旗飜る

【鄭州前線にて四日發同盟至急報】 鯉登、栗栖、小林の各部隊は四日午後零時半遂に鄭州を攻略、日章旗を掲げた

【○○基地四日發同盟至急報】 我機甲部隊の偵察に依れば敵は鄭州を棄てつゝ後退の如く、鄭州に殘留しつゝある敵は四日午後零時半遂に鄭州を攻略、輝く日章旗が鄭州に映えて翻飜と飜つてゐる

【新黄河岸四日發同盟】 陽田、鯉登、栗栖、小池、小林、湯口の各機甲部隊の渡河增援部隊は三日夜半を期し一齊に渡河を開始し敵牙城鄭州を攻略しつゝある

【新黄河岸○○にて四日同盟特派員發】 黄河南岸の三陣地より三日夜半を期し渡河を開始した我機甲部隊は敵の猛烈なる抵抗を排除しつゝ渡河を完了、小池、湯口、小林の各機甲部隊は陽田部隊に續いて渡河を開始、小林部隊は三日夜半を期し渡河を開始したので鯉登、栗栖、小林、湯口、小池の各機甲部隊は陽田部隊として一齊に渡河を開始した

【新黄河岸○○三日發同盟】 中牟の敵陣を粉碎西進中の我が機甲部隊は敵の退路を遮斷すべく鄭州の西北方に向ひ驀進中であるが、敵は我が機甲部隊の鄭州攻略を阻止せんとして

【新黄河岸○○にて四日同盟特派員發】 我機甲部隊は四日午後零時半遂に鄭州を攻略、輝く日章旗が鄭州に映えて翻飜と飜つてゐる

【新黄河岸三日發同盟】 陽田、鯉登、栗栖、小池、小林、湯口の各機甲部隊の渡河增援部隊は三日夜半を期し一齊に渡河を開始し敵牙城鄭州を攻略しつゝある

【新黄河岸○○三日發同盟】 中牟の敵陣を粉碎西進中の我が機甲部隊は敵の退路を遮斷すべく鄭州の西北方に向ひ驀進中であるが、敵は我が機甲部隊の鄭州攻略を阻止せんとして

意表の我渡河作戰
敵軍は全く狼狽混亂

【新黄河岸にて四日同盟特派員發】 我機甲部隊は四日午後零時半遂に鄭州を攻略、日章旗を掲げた

【○○基地四日發同盟至急報】 我機甲部隊の偵察に依れば敵は鄭州を棄てつゝ後退の如く、鄭州に殘留しつゝある各機甲部隊は四日午後零時半遂に鄭州を攻略、輝く日章旗が鄭州に映えて翻飜と飜つてゐる

【新黄河岸三日發同盟】 陽田、鯉登、栗栖、小池、小林、湯口の各機甲部隊の渡河增援部隊は三日夜半を期し一齊に渡河を開始し敵牙城鄭州を攻略しつゝある

【新黄河岸○○三日發同盟】 中牟の敵陣を粉碎西進中の我が機甲部隊は敵の退路を遮斷すべく鄭州の西北方に向ひ驀進中であるが、敵は我が機甲部隊の鄭州攻略を阻止せんとして

【新黄河岸○○にて四日同盟特派員發】 黄河南岸の三陣地より三日夜半を期し渡河を開始した我機甲部隊は敵の猛烈なる抵抗を排除しつゝ渡河を完了、小池、湯口、小林の各機甲部隊は陽田部隊に續いて渡河を開始、小林部隊は三日夜半を期し渡河を開始したので鯉登、栗栖、小池、小林、湯口の各機甲部隊は陽田部隊として一齊に渡河を開始した

【新黄河岸○○三日發同盟】 中牟の敵陣を粉碎西進中の我が機甲部隊は敵の退路を遮斷すべく鄭州の西北方に向ひ驀進中であるが、敵は我が機甲部隊の鄭州攻略を阻止せんとして

【新黄河岸三日發同盟】 陽田、鯉登、栗栖、小池、小林、湯口の各機甲部隊の渡河增援部隊は三日夜半を期し一齊に渡河を開始し敵牙城鄭州を攻略しつゝある

【新黄河岸○○にて四日同盟特派員發】 我機甲部隊は四日午後零時半遂に鄭州を攻略、輝く日章旗が鄭州に映えて翻飜と飜つてゐる

【新黄河岸三日發同盟】 陽田、鯉登、栗栖、小池、小林、湯口の各機甲部隊の渡河增援部隊は三日夜半を期し渡河を開始し敵牙城鄭州を攻略しつゝある

【新黄河岸○○三日發同盟】 中牟の敵陣を粉碎西進中の我が機甲部隊は敵の退路を遮斷すべく鄭州の西北方に向ひ驀進中であるが、敵は我が機甲部隊の鄭州攻略を阻止せんとして

【新黄河岸○○にて四日同盟特派員發】 黄河南岸の三陣地より三日夜半を期し渡河を開始した我機甲部隊は敵の猛烈なる抵抗を排除しつゝ渡河を完了、小池、湯口、小林の各機甲部隊は陽田部隊に續いて渡河を開始、小林部隊は三日夜半を期し渡河を開始したので鯉登、栗栖、小池、小林、湯口の各機甲部隊は陽田部隊として一齊に渡河を開始した

【新黄河岸

秋色濃き劍潭の杜に
外苑造營工事起工式
けふ嚴かに執行さる

本島統治四十年の慶祝と皇紀二六〇〇年奉祝の意義を含む臺北市内各官廳會社團體の協賛による臺北公園化運動の中核體、臺灣神社外苑造營工事は五日午前十時から劍潭の杜に嚴かに起工式を擧げた、外苑の造營工事は四日午前中から秩父宮殿下を始め奉祝使節一行の參拜を仰ぎ、午後は臺灣神社參拜者の數萬を算する盛況を呈したが、起工式は午前十時から劍潭の杜に嚴かに執行された、時社寺課長、郡守、市尹、總督官房各部長、總督府各局課長、臺北州各部長、臺北市各部長、臺北市會議員、臺北州會議員、臺北市會議員、臺北州各郡守、臺北市各區長、臺北州各警察署長、臺北市各警察署長、臺北州各學校長、臺北市各學校長、臺北州各中等學校長、臺北市各中等學校長、臺北州各女學校長、臺北市各女學校長、臺北州各實業學校長、臺北市各實業學校長、臺北州各青年團長、臺北市各青年團長、臺北州各婦人團體代表、臺北市各婦人團體代表、臺北州各部落代表、臺北市各部落代表、臺北州各官立學校生徒代表、臺北市各官立學校生徒代表、臺北州各公立學校生徒代表、臺北市各公立學校生徒代表、臺北州各私立學校生徒代表、臺北市各私立學校生徒代表、臺北州各實業團體代表、臺北市各實業團體代表、臺北州各宗教團體代表、臺北市各宗教團體代表、臺北州各社會事業團體代表、臺北市各社會事業團體代表、臺北州各青年團體代表、臺北市各青年團體代表

輸方無策版

對日離反を畫策

英・惡宣傳で泰國牽制

【倫敦特電】最近の佛印情勢に伴ふ新事態の勃發が英佐二國の對日宣傳に打つては絶好のチャンスを與へたるが如く、英國當局は頻りに泰國の離反化を企圖しつゝあるが、ビブン總理以下泰國首脳部は何れも日本の實力を認識しつゝあり、また一般民衆は日泰同盟に對する信賴感強く、從つて英國の惡宣傳も殆んど效果なく、英國の對泰策は全く行詰りの狀態にある、然しながら米の參戰に依る日獨伊三國同盟の瓦解如何にかゝはらず、泰國當局は英國の壓迫を必ずしも之を英の敵視する感となし、泰國全土は擧國一致の態勢に依然たる決意を示して居るといふ、英佐兩國は日本の印佛泰に於ける經濟的進出を極力阻止せんと焦慮して居るが、英國の對泰策は全く行詰りの狀態にあり、從つて英國當局者間では、ソ聯の大使館を泰國に置かしめ、ソ聯をして泰國の對英參戰を促さしめんとの意見さへ出てゐる、英國當局は泰國の對英參戰を絶對に不可能と觀察してゐるが

成層圏 (83)

廣津和郎作　大貫松三畫

別な競爭者 (十)

その翌日曜に取つて嬉しい眺であつた。朋友競爭相手を始めて發見した時は、何か嬉しい眺になるやうに感じたが、あや子の家の應接間で、あや子の母ちまじつて、さうして打解けた話をしてゐると、故勝の疎遠の間にあるやうな淋しいものを感じて來る。

「わたしも老へて見るわ」

とあや子も感じになつて、母のその感覺の點を取り、感覺で聞にしやうと寸法たてを練り始めた。

「世間をかうするのよ、田野さんもさうおもひしやう通り描いて貰つて頂戴よ。上手はやつぱり繪の折れてゐる方がいいのよ。男の國民畫の折樣の點があるでせうノーえゝ、さうさう、それが好らわ。そしてスポン——えゝ、スポンは赤中を大くして、下に行つてポン、と眞にさゆつとうばまるの。やつぱり赤中は大くてゆるやかでなくつて工合が惡いわ……」

「わかりましたわ」

いよいよ職人の腕の見せ所だ。

「さうさう、やつぱりうまいわね。野口家は……」

「神を赤中を大くして……さうすれば鉄をもよいと調折れば、和服の上からでも張られるから」

と母は世で女あや子の袴へに訴正を加へた。

「そして袴はシャツのやうなボタンにしないで、太いおさゆうとそこで聞るやうにしたら……さうビタンとスナップで止めるやうにしても好いわ」

母も感心の描いてゐるテーブルの上に眼みかゝるやうにした。そのなた何か解らぬ化粧の臨ひや、あや子の濃かい眼やが、彼の眼にこそゆいやうな感じがした。

彼はまるで家族の一眠のやうに（と彼には感ぜられたのである）あや子親子と一緒に茶の間で夕餉の御膳にもなつた。

「何もないんですよ、この時節ですから」

と母親がいつた通り、食卓の上は勿論で無をであつた。彼は吉川女史の眼鏡のかたのかも知れない。——併しあや子と一緒に食堂に向つたといふだけで、何もかも彼には美味しかつた。

食後にはあや子がピアノを弄いた。月が冴えてゐたので、彼女はバイライト・ソナタの一節を唄ういふ眼を描いた。

「さうさう、やつぱりうまいわね。野口家は……」

「袴を袴中を大くして……さうすれば鉄をもよいと調折れば、和服の上からでも張られるから」

と母は世で女あや子の袴へに訴正を加へた。

「そして袴はシャツのやうなボタンにしないで、太いおさゆうとそこで聞るやうにしたら……さうビタンとスナップで止めるやうにしても好いわ」

母も感心の描いてゐるテーブルの上に眼みかゝるやうにした。そのなた何か解らぬ化粧の臨ひや、あや子の濃かい眼やが、彼の眼にこそゆいやうな感じがした。

彼はまるで家族の一眠のやうに（と彼には感ぜられたのである）あや子親子と一緒に茶の間で夕餉の御膳にもなつた。

「何もないんですよ、この時節ですから」

と母親がいつた通り、食卓の上は勿論で無をであつた。彼は吉川女史の眼鏡のかたのかも知れない。——併しあや子と一緒に食堂に向つたといふだけで、何もかも彼には美味しかつた。

食後にはあや子がピアノを弄いた。月が冴えてゐたので、彼女はバイライト・ソナタの一節を唄ういふ眼を描いた。

「ええ、ベートーベンの月光曲ですわ」

彼女は眼がピアノの方へ向き直つて、ミニットを弄き出した。

「もう弱いの。——駄々、母が來ると、もつと強くなるのよ。——さうさう、それが好らわ。そしてスポン——えゝ、スポンは赤中を大くして、下に行つてポン、と眞にさゆつとうばまるの。やつぱり赤中は大くてゆるやかでなくつて工合が惡いわ……」

「さうですか」

いよいよ職人の腕の見せ所だ。

「ええ、ベートーベンの月光曲ですわ」

彼女は眼がピアノの方へ向き直つて、ミニットを弄き出した。

「もう弱いの。——駄々、母が來ると、もつと強くなるのよ。——さうさう、それが好らわ。そしてスポン——えゝ、スポンは赤中を大くして、下に行つてポン、と眞にさゆつとうばまるの。やつぱり赤中は大くてゆるやかでなくつて工合が惡いわ……」

「さうですか」

いよいよ職人の腕の見せ所だ。

小説と方言 (三)

方言への愛情

儀府成二

何かしらん實な感じを與へられるやうである。しかし、幸雄間に取つて嬉しい眺であつた。彼が競爭相手を始めて發見した時は、何か嬉しい眺になるやうに感じたが、あや子の家の應接間で、あや子の母ちまじつて、さうして打解けた話をしてゐると、故勝の疎遠の間にあるやうな淋しいものを感じて來る。

「わたしも老へて見るわ」

とあや子も感じになつて、母のその感覺の點を取り、感覺で聞にしやうと寸法たてを練り始めた。

「世間をかうするのよ、田野さんもさうおもひしやう通り描いて貰つて頂戴よ。上手はやつぱり繪の折れてゐる方がいいのよ。男の國民畫の折樣の點があるでせうノーえゝ、さうさう、それが好らわ。そしてスポン——えゝ、スポンは赤中を大くして、下に行つてポン、と眞にさゆつとうばまるの。やつぱり赤中は大くてゆるやかでなくつて工合が惡いわ……」

「さうですか」

いよいよ職人の腕の見せ所だ。

文化と人間の再生

宇津文也

一

かなり以前、たしか各國のヨーロッパ大戰のはじまる前だつた。アランの『ミネルヴ』とかいふ雜誌の中に「藝術のはじまり」といふ論説が載つてゐた。僕は偶然これを讀んだことがある。アランはその中で、プラトンを例にひいて、藝術家の出發點を人間の意欲の結果とみる點と、あらゆる點に於て藝術を生きる方から、あらゆる點に於て生きる方を說いてゐる。

もう一つアランはフランスの世態のなかでもアルリーヤジンドなどと違つて眞心とか藝術の名に於ても彼には興味しかつた。

そのアランがとうく戰爭の名目にしたのである。もとよりこれはジンドなどやや戰爭の嬉つた說ではあるが、當時の說得力は大いに强かつたものである。

それでもまだ世界が文化的に結ばれてゐたあのやうに見えてゐた頃はよかつたのかも知れない。僕らの前には文化があつた。藝術があつた。たゞ、世界が如何に分裂しようとも、國境を超えてしかも文化だけは、藝術だけにはこだはることのない確信が內心の一致へ向つてゐるやうに思はれてゐた。六年はとまくべリで眩ゆしらかある明るい消息を傳へてゐた。

ところが、どうだ。世界の眼が文化から離れ、藝術すべき文化をしつかり握つてゐると思ふほどにお身出たくはなかつたけれど藝術に就て語ることが出來、文化と離脫する氣配に感じうる危險に直面しなければならなかつたことだ。

僕にも感かつた。文化の根據の喪失ともいふべき、僕等の目は文化の生成りも寧ろ文化の保持のほうに向けられてゐた。僕等の多くは藝術が生きられなければならないものだと信じてゐたのだ。

文化とは絶えず創られてゐなければならないものだと信じてゐたのだ。

二

歷史にも感かつた。文化の根據は十九世紀に於て殺つかの國際をもつてゐた。フランスのロマンティズムがさうであり、スティルナー、ニイチエがさうであつた。キエルケゴール、アンポーと雖ども幾らかでもこの文化に流れあるなにその流れに大なる變換を與へるものであつた。ただ彼等は曲折して始くとも、歷史に他を與れない。國家或は社會の文化の發展に對して、或は文化に對立するものを見出すことによつて、文化と自己とを結びつけてゐた。

文化と自己とが對立して藝術されなければならない。ヨーロッパの藝術家が如何に文化を拒へてゐるか、僕は知つてゐる。それは文化と自己とが對立することによつて、文化に新しい文化が創られなければならないことと、それは歷史の發展であることと、歷史は歷史自身の發展として文化を生むことを知つてゐるからだ。

文化と自己とが對立して藝術されなければならない。ヨーロッパの藝術家が如何に文化を拒へてゐるか、僕は知つてゐる。それは文化と自己とが對立することによつて、文化に新しい文化が創られなければならないことと、それは歷史の發展であることと、歷史は歷史自身の發展として文化を生むことを知つてゐるからだ。

霜の朝（臺展東洋畫部）　總倉千秋

「家なき天使」を推す

北川鐵夫

內容で上映された朝鮮總督の中が下省三郎してしるべくである。

×……×

歷史に關する「かへの塔」と同樣、朝鮮の傳說的なもいふべき新興朝鮮といふ點が注意に値する。

×……×

もこれまでの朝鮮映畫の殼であるかも知れない。——併しあや子と一緒に食堂に向つたといふだけで、何もかも彼には美味しかつた。

食後にはあや子がピアノを弄いた。月が冴えてゐたので、彼女はバイライト・ソナタの一節を唄ういふ眼を描いた。

彼はまるで家族の一眠のやうに（と彼には感ぜられたのである）あや子親子と一緒に茶の間で夕餉の御膳にもなつた。

「何もないんですよ、この時節ですから」

と母親がいつた通り、食卓の上は勿論で無をであつた。彼は吉川女史の眼鏡のかたの

臺灣日日新報 昭和十六年十月五日（日曜日） 第一万四千九百三十四號 （一）

堂々長沙入城の皇軍部隊（北大路にて）

敵の抗日最大據點 鄭州を完全占領

皇軍猛進一晝夜半の戰果

【鄭州四日發同盟】三百餘年から四日未明にかけて皇軍同部方面部隊に於ける我が各部隊は（一）我が部隊は本（十七）日に鄭州を陷落し、續いて（二）我が部隊は（十八）日に鄭州を陷落し、（三）我が部隊は（十九）日に鄭州を陷落し、（四）我が部隊は（二十）日に鄭州を陷落し、（五）我が部隊は（二十一）日に鄭州を陷落し、（六）我が部隊は（二十二）日に鄭州を陷落し、（七）我が部隊は（二十三）日に鄭州を陷落し、（八）我が部隊は（二十四）日に鄭州を陷落し、（九）我が部隊は（二十五）日に鄭州を陷落し、（十）我が部隊は（二十六）日に鄭州を陷落し、（十一）我が部隊は（二十七）日に鄭州を陷落し、（十二）我が部隊は（二十八）日に鄭州を陷落し、（十三）我が部隊は（二十九）日に鄭州を陷落し、（十四）我が部隊は（三十）日に鄭州を陷落し、（十五）我が部隊は（三十一）日に鄭州を陷落し、（十六）我が部隊は（三十二）日に鄭州を陷落し、（十七）我が部隊は（三十三）日に鄭州を陷落し、（十八）我が部隊は（三十四）日に鄭州を陷落し、（十九）我が部隊は（三十五）日に鄭州を陷落し、（二十）我が部隊は（三十六）日に鄭州を陷落し、（二十一）我が部隊は（三十七）日に鄭州を陷落し、（二十二）我が部隊は（三十八）日に鄭州を陷落し、（二十三）我が部隊は（三十九）日に鄭州を陷落し、（二十四）我が部隊は（四十）日に鄭州を陷落し、（二十五）我が部隊は（四十一）日に鄭州を陷落し、（二十六）我が部隊は（四十二）日に鄭州を陷落し、（二十七）我が部隊は（四十三）日に鄭州を陷落し、（二十八）我が部隊は（四十四）日に鄭州を陷落し、（二十九）我が部隊は（四十五）日に鄭州を陷落し、（三十）我が部隊は（四十六）日に鄭州を陷落し、（三十一）我が部隊は（四十七）日に鄭州を陷落し、（三十二）我が部隊は（四十八）日に鄭州を陷落し、（三十三）我が部隊は（四十九）日に鄭州を陷落し、（三十四）我が部隊は（五十）日に鄭州を陷落し、（三十五）我が部隊は（五十一）日に鄭州を陷落し、（三十六）我が部隊は（五十二）日に鄭州を陷落し、（三十七）我が部隊は（五十三）日に鄭州を陷落し、（三十八）我が部隊は（五十四）日に鄭州を陷落し、（三十九）我が部隊は（五十五）日に鄭州を陷落し、（四十）我が部隊は（五十六）日に鄭州を陷落し、（四十一）我が部隊は（五十七）日に鄭州を陷落し、（四十二）我が部隊は（五十八）日に鄭州を陷落し、（四十三）我が部隊は（五十九）日に鄭州を陷落し、（四十四）我が部隊は（六十）日に鄭州を陷落し、（四十五）我が部隊は（六十一）日に鄭州を陷落し、（四十六）我が部隊は（六十二）日に鄭州を陷落し、（四十七）我が部隊は（六十三）日に鄭州を陷落し、（四十八）我が部隊は（六十四）日に鄭州を陷落し、（四十九）我が部隊は（六十五）日に鄭州を陷落し、（五十）我が部隊は（六十六）日に鄭州を陷落し、（五十一）我が部隊は（六十七）日に鄭州を陷落し、（五十二）我が部隊は（六十八）日に鄭州を陷落し、（五十三）我が部隊は（六十九）日に鄭州を陷落し、（五十四）我が部隊は（七十）日に鄭州を陷落し、（五十五）我が部隊は（七十一）日に鄭州を陷落し、（五十六）我が部隊は（七十二）日に鄭州を陷落し、（五十七）我が部隊は（七十三）日に鄭州を陷落し、（五十八）我が部隊は（七十四）日に鄭州を陷落し、（五十九）我が部隊は（七十五）日に鄭州を陷落し、（六十）我が部隊は（七十六）日に鄭州を陷落し、（六十一）我が部隊は（七十七）日に鄭州を陷落し、（六十二）我が部隊は（七十八）日に鄭州を陷落し、（六十三）我が部隊は（七十九）日に鄭州を陷落し、（六十四）我が部隊は（八十）日に鄭州を陷落し、（六十五）我が部隊は（八十一）日に鄭州を陷落し、（六十六）我が部隊は（八十二）日に鄭州を陷落し、（六十七）我が部隊は（八十三）日に鄭州を陷落し、（六十八）我が部隊は（八十四）日に鄭州を陷落し、（六十九）我が部隊は（八十五）日に鄭州を陷落し、（七十）我が部隊は（八十六）日に鄭州を陷落し、（七十一）我が部隊は（八十七）日に鄭州を陷落し、（七十二）我が部隊は（八十八）日に鄭州を陷落し、（七十三）我が部隊は（八十九）日に鄭州を陷落し、（七十四）我が部隊は（九十）日に鄭州を陷落し、（七十五）我が部隊は（九十一）日に鄭州を陷落し、（七十六）我が部隊は（九十二）日に鄭州を陷落し、（七十七）我が部隊は（九十三）日に鄭州を陷落し、（七十八）我が部隊は（九十四）日に鄭州を陷落し、（七十九）我が部隊は（九十五）日に鄭州を陷落し、（八十）我が部隊は（九十六）日に鄭州を陷落し、（八十一）我が部隊は（九十七）日に鄭州を陷落し、（八十二）我が部隊は（九十八）日に鄭州を陷落し、（八十三）我が部隊は（九十九）日に鄭州を陷落し、（八十四）我が部隊は（百）日に鄭州を陷落し、（八十五）我が部隊は（百一）日に鄭州を陷落し、（八十六）我が部隊は（百二）日に鄭州を陷落し、（八十七）我が部隊は（百三）日に鄭州を陷落し、（八十八）我が部隊は（百四）日に鄭州を陷落し、（八十九）我が部隊は（百五）日に鄭州を陷落し、（九十）我が部隊は（百六）日に鄭州を陷落し、（九十一）我が部隊は（百七）日に鄭州を陷落し、（九十二）我が部隊は（百八）日に鄭州を陷落し、（九十三）我が部隊は（百九）日に鄭州を陷落し、（九十四）我が部隊は（百十）日に鄭州を陷落し、（九十五）我が部隊は（百十一）日に鄭州を陷落し、（九十六）我が部隊は（百十二）日に鄭州を陷落し、（九十七）我が部隊は（百十三）日に鄭州を陷落し、（九十八）我が部隊は（百十四）日に鄭州を陷落し、（九十九）我が部隊は（百十五）日に鄭州を陷落し、（百）我が部隊は（百十六）日に鄭州を陷落し、（百一）我が部隊は（百十七）日に鄭州を陷落し、（百二）我が部隊は（百十八）日に鄭州を陷落し、（百三）我が部隊は（百十九）日に鄭州を陷落し、（百四）我が部隊は（百二十）日に鄭州を陷落し、（百五）我が部隊は（百二十一）日に鄭州を陷落し、（百六）我が部隊は（百二十二）日に鄭州を陷落し、（百七）我が部隊は（百二十三）日に鄭州を陷落し、（百八）我が部隊は（百二十四）日に鄭州を陷落し、（百九）我が部隊は（百二十五）日に鄭州を陷落し、（百十）我が部隊は（百二十六）日に鄭州を陷落し、（百十一）我が部隊は（百二十七）日に鄭州を陷落し、（百十二）我が部隊は（百二十八）日に鄭州を陷落し、（百十三）我が部隊は（百二十九）日に鄭州を陷落し、（百十四）我が部隊は（百三十）日に鄭州を陷落し、（百十五）我が部隊は（百三十一）日に鄭州を陷落し、（百十六）我が部隊は（百三十二）日に鄭州を陷落し、（百十七）我が部隊は（百三十三）日に鄭州を陷落し、（百十八）我が部隊は（百三十四）日に鄭州を陷落し、（百十九）我が部隊は（百三十五）日に鄭州を陷落し、（百二十）我が部隊は（百三十六）日に鄭州を陷落し、（百二十一）我が部隊は（百三十七）日に鄭州を陷落し、（百二十二）我が部隊は（百三十八）日に鄭州を陷落し、（百二十三）我が部隊は（百三十九）日に鄭州を陷落し、（百二十四）我が部隊は（百四十）日に鄭州を陷落し、（百二十五）我が部隊は（百四十一）日に鄭州を陷落し、（百二十六）我が部隊は（百四十二）日に鄭州を陷落し、（百二十七）我が部隊は（百四十三）日に鄭州を陷落し、（百二十八）我が部隊は（百四十四）日に鄭州を陷落し、（百二十九）我が部隊は（百四十五）日に鄭州を陷落し、（百三十）我が部隊は（百四十六）日に鄭州を陷落し、（百三十一）我が部隊は（百四十七）日に鄭州を陷落し、（百三十二）我が部隊は（百四十八）日に鄭州を陷落し、（百三十三）我が部隊は（百四十九）日に鄭州を陷落し、（百三十四）我が部隊は（百五十）日に鄭州を陷落し、（百三十五）我が部隊は（百五十一）日に鄭州を陷落し、（百三十六）我が部隊は（百五十二）日に鄭州を陷落し、（百三十七）我が部隊は（百五十三）日に鄭州を陷落し、（百三十八）我が部隊は（百五十四）日に鄭州を陷落し、（百三十九）我が部隊は（百五十五）日に鄭州を陷落し、（百四十）我が部隊は（百五十六）日に鄭州を陷落し、（百四十一）我が部隊は（百五十七）日に鄭州を陷落し、（百四十二）我が部隊は（百五十八）日に鄭州を陷落し、（百四十三）我が部隊は（百五十九）日に鄭州を陷落し、（百四十四）我が部隊は（百六十）日に鄭州を陷落し、（百四十五）我が部隊は（百六十一）日に鄭州を陷落し、（百四十六）我が部隊は（百六十二）日に鄭州を陷落し、（百四十七）我が部隊は（百六十三）日に鄭州を陷落し、（百四十八）我が部隊は（百六十四）日に鄭州を陷落し、（百四十九）我が部隊は（百六十五）日に鄭州を陷落し、（百五十）我が部隊は（百六十六）日に鄭州を陷落し、（百五十一）我が部隊は（百六十七）日に鄭州を陷落し、（百五十二）我が部隊は（百六十八）日に鄭州を陷落し、（百五十三）我が部隊は（百六十九）日に鄭州を陷落し、（百五十四）我が部隊は（百七十）日に鄭州を陷落し、（百五十五）我が部隊は（百七十一）日に鄭州を陷落し、（百五十六）我が部隊は（百七十二）日に鄭州を陷落し、（百五十七）我が部隊は（百七十三）日に鄭州を陷落し、（百五十八）我が部隊は（百七十四）日に鄭州を陷落し、（百五十九）我が部隊は（百七十五）日に鄭州を陷落し、（百六十）我が部隊は（百七十六）日に鄭州を陷落し、（百六十一）我が部隊は（百七十七）日に鄭州を陷落し、（百六十二）我が部隊は（百七十八）日に鄭州を陷落し、（百六十三）我が部隊は（百七十九）日に鄭州を陷落し、（百六十四）我が部隊は（百八十）日に鄭州を陷落し、（百六十五）我が部隊は（百八十一）日に鄭州を陷落し、（百六十六）我が部隊は（百八十二）日に鄭州を陷落し、（百六十七）我が部隊は（百八十三）日に鄭州を陷落し、（百六十八）我が部隊は（百八十四）日に鄭州を陷落し、（百六十九）我が部隊は（百八十五）日に鄭州を陷落し、（百七十）我が部隊は（百八十六）日に鄭州を陷落し、（百七十一）我が部隊は（百八十七）日に鄭州を陷落し、（百七十二）我が部隊は（百八十八）日に鄭州を陷落し、（百七十三）我が部隊は（百八十九）日に鄭州を陷落し、（百七十四）我が部隊は（百九十）日に鄭州を陷落し、（百七十五）我が部隊は（百九十一）日に鄭州を陷落し、（百七十六）我が部隊は（百九十二）日に鄭州を陷落し、（百七十七）我が部隊は（百九十三）日に鄭州を陷落し、（百七十八）我が部隊は（百九十四）日に鄭州を陷落し、（百七十九）我が部隊は（百九十五）日に鄭州を陷落し、（百八十）我が部隊は（百九十六）日に鄭州を陷落し、（百八十一）我が部隊は（百九十七）日に鄭州を陷落し、（百八十二）我が部隊は（百九十八）日に鄭州を陷落し、（百八十三）我が部隊は（百九十九）日に鄭州を陷落し、（百八十四）我が部隊は（二百）日に鄭州を陷落し、（百八十五）我が部隊は（二百一）日に鄭州を陷落し、（百八十六）我が部隊は（二百二）日に鄭州を陷落し、（百八十七）我が部隊は（二百三）日に鄭州を陷落し、（百八十八）我が部隊は（二百四）日に鄭州を陷落し、（百八十九）我が部隊は（二百五）日に鄭州を陷落し、（百九十）我が部隊は（二百六）日に鄭州を陷落し、（百九十一）我が部隊は（二百七）日に鄭州を陷落し、（百九十二）我が部隊は（二百八）日に鄭州を陷落し、（百九十三）我が部隊は（二百九）日に鄭州を陷落し、（百九十四）我が部隊は（二百十）日に鄭州を陷落し、（百九十五）我が部隊は（二百十一）日に鄭州を陷落し、（百九十六）我が部隊は（二百十二）日に鄭州を陷落し、（百九十七）我が部隊は（二百十三）日に鄭州を陷落し、（百九十八）我が部隊は（二百十四）日に鄭州を陷落し、（百九十九）我が部隊は（二百十五）日に鄭州を陷落し、（二百）我が部隊は（二百十六）日に鄭州を陷落し、（二百一）我が部隊は（二百十七）日に鄭州を陷落し、（二百二）我が部隊は（二百十八）日に鄭州を陷落し、（二百三）我が部隊は（二百十九）日に鄭州を陷落し、（二百四）我が部隊は（二百二十）日に鄭州を陷落し、（二百五）我が部隊は（二百二十一）日に鄭州を陷落し、（二百六）我が部隊は（二百二十二）日に鄭州を陷落し、（二百七）我が部隊は（二百二十三）日に鄭州を陷落し、（二百八）我が部隊は（二百二十四）日に鄭州を陷落し、（二百九）我が部隊は（二百二十五）日に鄭州を陷落し、（二百十）我が部隊は（二百二十六）日に鄭州を陷落し、（二百十一）我が部隊は（二百二十七）日に鄭州を陷落し、（二百十二）我が部隊は（二百二十八）日に鄭州を陷落し、（二百十三）我が部隊は（二百二十九）日に鄭州を陷落し、（二百十四）我が部隊は（二百三十）日に鄭州を陷落し、（二百十五）我が部隊は（二百三十一）日に鄭州を陷落し、（二百十六）我が部隊は（二百三十二）日に鄭州を陷落し、（二百十七）我が部隊は（二百三十三）日に鄭州を陷落し、（二百十八）我が部隊は（二百三十四）日に鄭州を陷落し、（二百十九）我が部隊は（二百三十五）日に鄭州を陷落し、（二百二十）我が部隊は（二百三十六）日に鄭州を陷落し、（二百二十一）我が部隊は（二百三十七）日に鄭州を陷落し、（二百二十二）我が部隊は（二百三十八）日に鄭州を陷落し、（二百二十三）我が部隊は（二百三十九）日に鄭州を陷落し、（二百二十四）我が部隊は（二百四十）日に鄭州を陷落し、（二百二十五）我が部隊は（二百四十一）日に鄭州を陷落し、（二百二十六）我が部隊は（二百四十二）日に鄭州を陷落し、（二百二十七）我が部隊は（二百四十三）日に鄭州を陷落し、（二百二十八）我が部隊は（二百四十四）日に鄭州を陷落し、（二百二十九）我が部隊は（二百四十五）日に鄭州を陷落し、（二百三十）我が部隊は（二百四十六）日に鄭州を陷落し、（二百三十一）我が部隊は（二百四十七）日に鄭州を陷落し、（二百三十二）我が部隊は（二百四十八）日に鄭州を陷落し、（二百三十三）我が部隊は（二百四十九）日に鄭州を陷落し、（二百三十四）我が部隊は（二百五十）日に鄭州を陷落し、（二百三十五）我が部隊は（二百五十一）日に鄭州を陷落し、（二百三十六）我が部隊は（二百五十二）日に鄭州を陷落し、（二百三十七）我が部隊は（二百五十三）日に鄭州を陷落し、（二百三十八）我が部隊は（二百五十四）日に鄭州を陷落し、（二百三十九）我が部隊は（二百五十五）日に鄭州を陷落し、（二百四十）我が部隊は（二百五十六）日に鄭州を陷落し、（二百四十一）我が部隊は（二百五十七）日に鄭州を陷落し、（二百四十二）我が部隊は（二百五十八）日に鄭州を陷落し、（二百四十三）我が部隊は（二百五十九）日に鄭州を陷落し、（二百四十四）我が部隊は（二百六十）日に鄭州を陷落し、（二百四十五）我が部隊は（二百六十一）日に鄭州を陷落し、（二百四十六）我が部隊は（二百六十二）日に鄭州を陷落し、（二百四十七）我が部隊は（二百六十三）日に鄭州を陷落し、（二百四十八）我が部隊は（二百六十四）日に鄭州を陷落し、（二百四十九）我が部隊は（二百六十五）日に鄭州を陷落し、（二百五十）我が部隊は（二百六十六）日に鄭州を陷落し、（二百五十一）我が部隊は（二百六十七）日に鄭州を陷落し、（二百五十二）我が部隊は（二百六十八）日に鄭州を陷落し、（二百五十三）我が部隊は（二百六十九）日に鄭州を陷落し、（二百五十四）我が部隊は（二百七十）日に鄭州を陷落し、（二百五十五）我が部隊は（二百七十一）日に鄭州を陷落し、（二百五十六）我が部隊は（二百七十二）日に鄭州を陷落し、（二百五十七）我が部隊は（二百七十三）日に鄭州を陷落し、（二百五十八）我が部隊は（二百七十四）日に鄭州を陷落し、（二百五十九）我が部隊は（二百七十五）日に鄭州を陷落し、（二百六十）我が部隊は（二百七十六）日に鄭州を陷落し、（二百六十一）我が部隊は（二百七十七）日に鄭州を陷落し、（二百六十二）我が部隊は（二百七十八）日に鄭州を陷落し、（二百六十三）我が部隊は（二百七十九）日に鄭州を陷落し、（二百六十四）我が部隊は（二百八十）日に鄭州を陷落し、（二百六十五）我が部隊は（二百八十一）日に鄭州を陷落し、（二百六十六）我が部隊は（二百八十二）日に鄭州を陷落し、（二百六十七）我が部隊は（二百八十三）日に鄭州を陷落し、（二百六十八）我が部隊は（二百八十四）日に鄭州を陷落し、（二百六十九）我が部隊は（二百八十五）日に鄭州を陷落し、（二百七十）我が部隊は（二百八十六）日に鄭州を陷落し、（二百七十一）我が部隊は（二百八十七）日に鄭州を陷落し、（二百七十二）我が部隊は（二百八十八）日に鄭州を陷落し、（二百七十三）我が部隊は（二百八十九）日に鄭州を陷落し、（二百七十四）我が部隊は（二百九十）日に鄭州を陷落し、（二百七十五）我が部隊は（二百九十一）日に鄭州を陷落し、（二百七十六）我が部隊は（二百九十二）日に鄭州を陷落し、（二百七十七）我が部隊は（二百九十三）日に鄭州を陷落し、（二百七十八）我が部隊は（二百九十四）日に鄭州を陷落し、（二百七十九）我が部隊は（二百九十五）日に鄭州を陷落し、（二百八十）我が部隊は（二百九十六）日に鄭州を陷落し、（二百八十一）我が部隊は（二百九十七）日に鄭州を陷落し、（二百八十二）我が部隊は（二百九十八）日に鄭州を陷落し、（二百八十三）我が部隊は（二百九十九）日に鄭州を陷落し、（二百八十四）我が部隊は（三百）日に鄭州を陷落し、（二百八十五）我が部隊は（三百一）日に鄭州を陷落し、（二百八十六）我が部隊は（三百二）日に鄭州を陷落し、（二百八十七）我が部隊は（三百三）日に鄭州を陷落し、（二百八十八）我が部隊は（三百四）日に鄭州を陷落し、（二百八十九）我が部隊は（三百五）日に鄭州を陷落し、（二百九十）我が部隊は（三百六）日に鄭州を陷落し、（二百九十一）我が部隊は（三百七）日に鄭州を陷落し、（二百九十二）我が部隊は（三百八）日に鄭州を陷落し、（二百九十三）我が部隊は（三百九）日に鄭州を陷落し、（二百九十四）我が部隊は（三百十）日に鄭州を陷落し、（二百九十五）我が部隊は（三百十一）日に鄭州を陷落し、（二百九十六）我が部隊は（三百十二）日に鄭州を陷落し、（二百九十七）我が部隊は（三百十三）日に鄭州を陷落し、（二百九十八）我が部隊は（三百十四）日に鄭州を陷落し、（二百九十九）我が部隊は（三百十五）日に鄭州を陷落し、（三百）我が部隊は（三百十六）日に鄭州を陷落し、（三百一）我が部隊は（三百十七）日に鄭州を陷落し、（三百二）我が部隊は（三百十八）日に鄭州を陷落し、（三百三）我が部隊は（三百十九）日に鄭州を陷落し、（三百四）我が部隊は（三百二十）日に鄭州を陷落し、（三百五）我が部隊は（三百二十一）日に鄭州を陷落し、（三百六）我が部隊は（三百二十二）日に鄭州を陷落し、（三百七）我が部隊は（三百二十三）日に鄭州を陷落し、（三百八）我が部隊は（三百二十四）日に鄭州を陷落し、（三百九）我が部隊は（三百二十五）日に鄭州を陷落し、（三百十）我が部隊は（三百二十六）日に鄭州を陷落し、（三百十一）我が部隊は（三百二十七）日に鄭州を陷落し、（三百十二）我が部隊は（三百二十八）日に鄭州を陷落し、（三百十三）我が部隊は（三百二十九）日に鄭州を陷落し、（三百十四）我が部隊は（三百三十）日に鄭州を陷落し、（三百十五）我が部隊は（三百三十一）日に鄭州を陷落し、（三百十六）我が部隊は（三百三十二）日に鄭州を陷落し、（三百十七）我が部隊は（三百三十三）日に鄭州を陷落し、（三百十八）我が部隊は（三百三十四）日に鄭州を陷落し、（三百十九）我が部隊は（三百三十五）日に鄭州を陷落し、（三百二十）我が部隊は（三百三十六）日に鄭州を陷落し、（三百二十一）我が部隊は（三百三十七）日に鄭州を陷落し、（三百二十二）我が部隊は（三百三十八）日に鄭州を陷落し、（三百二十三）我が部隊は（三百三十九）日に鄭州を陷落し、（三百二十四）我が部隊は（三百四十）日に鄭州を陷落し、（三百二十五）我が部隊は（三百四十一）日に鄭州を陷落し、（三百二十六）我が部隊は（三百四十二）日に鄭州を陷落し、（三百二十七）我が部隊は（三百四十三）日に鄭州を陷落し、（三百二十八）我が部隊は（三百四十四）日に鄭州を陷落し、（三百二十九）我が部隊は（三百四十五）日に鄭州を陷落し、（三百三十）我が部隊は（三百四十六）日に鄭州を陷落し、（三百三十一）我が部隊は（三百四十七）日に鄭州を陷落し、（三百三十二）我が部隊は（三百四十八）日に鄭州を陷落し、（三百三十三）我が部隊は（三百四十九）日に鄭州を陷落し、（三百三十四）我が部隊は（三百五十）日に鄭州を陷落し、（三百三十五）我が部隊は（三百五十一）日に鄭州を陷落し、（三百三十六）我が部隊は（三百五十二）日に鄭州を陷落し、（三百三十七）我が部隊は（三百五十三）日に鄭州を陷落し、（三百三十八）我が部隊は（三百五十四）日に鄭州を陷落し、（三百三十九）我が部隊は（三百五十五）日に鄭州を陷落し、（三百四十）我が部隊は（三百五十六）日に鄭州を陷落し、（三百四十一）我が部隊は（三百五十七）日に鄭州を陷落し、（三百四十二）我が部隊は（三百五十八）日に鄭州を陷落し、（三百四十三）我が部隊は（三百五十九）日に鄭州を陷落し、（三百四十四）我が部隊は（三百六十）日に鄭州を陷落し、（三百四十五）我が部隊は（三百六十一）日に鄭州を陷落し、（三百四十六）我が部隊は（三百六十二）日に鄭州を陷落し、（三百四十七）我が部隊は（三百六十三）日に鄭州を陷落し、（三百四十八）我が部隊は（三百六十四）日に鄭州を陷落し、（三百四十九）我が部隊は（三百六十五）日に鄭州を陷落し、（三百五十）我が部隊は（三百六十六）日に鄭州を陷落し、（三百五十一）我が部隊は（三百六十七）日に鄭州を陷落し、（三百五十二）我が部隊は（三百六十八）日に鄭州を陷落し、（三百五十三）我が部隊は（三百六十九）日に鄭州を陷落し、（三百五十四）我が部隊は（三百七十）日に鄭州を陷落し、（三百五十五）我が部隊は（三百七十一）日に鄭州を陷落し、（三百五十六）我が部隊は（三百七十二）日に鄭州を陷落し、（三百五十七）我が部隊は（三百七十三）日に鄭州を陷落し、（三百五十八）我が部隊は（三百七十四）日に鄭州を陷落し、（三百五十九）我が部隊は（三百七十五）日に鄭州を陷落し、（三百六十）我が部隊は（三百七十六）日に鄭州を陷落し、（三百六十一）我が部隊は（三百七十七）日に鄭州を陷落し、（三百六十二）我が部隊は（三百七十八）日に鄭州を陷落し、（三百六十三）我が部隊は（三百七十九）日に鄭州を陷落し、（三百六十四）我が部隊は（三百八十）日に鄭州を陷落し、（三百六十五）我が部隊は（三百八十一）日に鄭州を陷落し、（三百六十六）我が部隊は（三百八十二）日に鄭州を陷落し、（三百六十七）我が部隊は（三百八十三）日に鄭州を陷落し、（三百六十八）我が部隊は（三百八十四）日に鄭州を陷落し、（三百六十九）我が部隊は（三百八十五）日に鄭州を陷落し、（三百七十）我が部隊は（三百八十六）日に鄭州を陷落し、（三百七十一）我が部隊は（三百八十七）日に鄭州を陷落し、（三百七十二）我が部隊は（三百八十八）日に鄭州を陷落し、（三百七十三）我が部隊は（三百八十九）日に鄭州を陷落し、（三百七十四）我が部隊は（三百九十）日に鄭州を陷落し、（三百七十五）我が部隊は（三百九十一）日に鄭州を陷落し、（三百七十六）我が部隊は（三百九十二）日に鄭州を陷落し、（三百七十七）我が部隊は（三百九十三）日に鄭州を陷落し、（三百七十八）我が部隊は（三百九十四）日に鄭州を陷落し、（三百七十九）我が部隊は（三百九十五）日に鄭州を陷落し、（三百八十）我が部隊は（三百九十六）日に鄭州を陷落し、（三百八十一）我が部隊は（三百九十七）日に鄭州を陷落し、（三百八十二）我が部隊は（三百九十八）日に鄭州を陷落し、（三百八十三）我が部隊は（三百九十九）日に鄭州を陷落し、（三百八十四）我が部隊は（四百）日に鄭州を陷落し、（三百八十五）我が部隊は（四百一）日に鄭州を陷落し、（三百八十六）我が部隊は（四百二）日に鄭州を陷落し、（三百八十七）我が部隊は（四百三）日に鄭州を陷落し、（三百八十八）我が部隊は（四百四）日に鄭州を陷落し、（三百八十九）我が部隊は（四百五）日に鄭州を陷落し、（三百九十）我が部隊は（四百六）日に鄭州を陷落し、（三百九十一）我が部隊は（四百七）日に鄭州を陷落し、（三百九十二）我が部隊は（四百八）日に鄭州を陷落し、（三百九十三）我が部隊は（四百九）日に鄭州を陷落し、（三百九十四）我が部隊は（四百十）日に鄭州を陷落し、（三百九十五）我が部隊は（四百十一）日に鄭州を陷落し、（三百九十六）我が部隊は（四百十二）日に鄭州を陷落し、（三百九十七）我が部隊は（四百十三）日に鄭州を陷落し、（三百九十八）我が部隊は（四百十四）日に鄭州を陷落し、（三百九十九）我が部隊は（四百十五）日に鄭州を陷落し、（四百）我が部隊は（四百十六）日に鄭州を陷落し、（四百一）我が部隊は（四百十七）日に鄭州を陷落し、（四百二）我が部隊は（四百十八）日に鄭州を陷落し、（四百三）我が部隊は（四百十九）日に鄭州を陷落し、（四百四）我が部隊は（四百二十）日に鄭州を陷落し、（四百五）我が部隊は（四百二十一）日に鄭州を陷落し、（四百六）我が部隊は（四百二十二）日に鄭州を陷落し、（四百七）我が部隊は（四百二十三）日に鄭州を陷落し、（四百八）我が部隊は（四百二十四）日に鄭州を陷落し、（四百九）我が部隊は（四百二十五）日に鄭州を陷落し、（四百十）我が部隊は（四百二十六）日に鄭州を陷落し、（四百十一）我が部隊は（四百二十七）日に鄭州を陷落し、（四百十二）我が部隊は（四百二十八）日に鄭州を陷落し、（四百十三）我が部隊は（四百二十九）日に鄭州を陷落し、（四百十四）我が部隊は（四百三十）日に鄭州を陷落し、（四百十五）我が部隊は（四百三十一）日に鄭州を陷落し、（四百十六）我が部隊は（四百三十二）日に鄭州を陷落し、（四百十七）我が部隊は（四百三十三）日に鄭州を陷落し、（四百十八）我が部隊は（四百三十四）日に鄭州を陷落し、（四百十九）我が部隊は（四百三十五）日に鄭州を陷落し、（四百二十）我が部隊は（四百三十六）日に鄭州を陷落し、（四百二十一）我が部隊は（四百三十七）日に鄭州を陷落し、（四百二十二）我が部隊は（四百三十八）日に鄭州を陷落し、（四百二十三）我が部隊は（四百三十九）日に鄭州を陷落し、（四百二十四）我が部隊は（四百四十）日に鄭州を陷落し、（四百二十五）我が部隊は（四百四十一）日に鄭州を陷落し、（四百二十六）我が部隊は（四百四十二）日に鄭州を陷落し、（四百二十七）我が部隊は（四百四十三）日に鄭州を陷落し、（四百二十八）我が部隊は（四百四十四）日に鄭州を陷落し、（四百二十九）我が部隊は（四百四十五）日に鄭州を陷落し、（四百三十）我が部隊は（四百四十六）日に鄭州を陷落し、（四百三十一）我が部隊は（四百四十七）日に鄭州を陷落し、（四百三十二）我が部隊は（四百四十八）日に鄭州を陷落し、（四百三十三）我が部隊は（四百四十九）日に鄭州を陷落し、（四百三十四）我が部隊は（四百五十）日に鄭州を陷落し、（四百三十五）我が部隊は（四百五十一）日に鄭州を陷落し、（四百三十六）我が部隊は（四百五十二）日に鄭州を陷落し、（四百三十七）我が部隊は（四百五十三）日に鄭州を陷落し、（四百三十八）我が部隊は（四百五十四）日に鄭州を陷落し、（四百三十九）我が部隊は（四百五十五）日に鄭州を陷落し、（四百四十）我が部隊は（四百五十六）日に鄭州を陷落し、（四百四十一）我が部隊は（四百五十七）日に鄭州を陷落し、（四百四十二）我が部隊は（四百五十八）日に鄭州を陷落し、（四百四十三）我が部隊は（四百五十九）日に鄭州を陷落し、（四百四十四）我が部隊は（四百六十）日に鄭州を陷落し、（四百四十五）我が部隊は（四百六十一）日に鄭州を陷落し、（四百四十六）我が部隊は（四百六十二）日に鄭州を陷落し、（四百四十七）我が部隊は（四百六十三）日に鄭州を陷落し、（四百四十八）我が部隊は（四百六十四）日に鄭州を陷落し、（四百四十九）我が部隊は（四百六十五）日に鄭州を陷落し、（四百五十）我が部隊は（四百六十六）日に鄭州を陷落し、（四百五十一）我が部隊は（四百六十七）日に鄭州を陷落し、（四百五十二）我が部隊は（四百六十八）日に鄭州を陷落し、（四百五十三）我が部隊は（四百六十九）日に鄭州を陷落し、（四百五十四）我が部隊は（四百七十）日に鄭州を陷落し、（四百五十五）我が部隊は（四百七十一）日に鄭州を陷落し、（四百五十六）我が部隊は（四百七十二）日に鄭州を陷落し、（四百五十七）我が部隊は（四百七十三）日に鄭州を陷落し、（四百五十八）我が部隊は（四百七十四）日に鄭州を陷落し、（四百五十九）我が部隊は（四百七十五）日に鄭州を陷落し、（四百六十）我が部隊は（四百七十六）日に鄭州を陷落し、（四百六十一）我が部隊は（四百七十七）日に鄭州を陷落し、（四百六十二）我が部隊は（四百七十八）日に鄭州を陷落し、（四百六十三）我が部隊は（四百七十九）日に鄭州を陷落し、（四百六十四）我が部隊は（四百八十）日に鄭州を陷落し、（四百六十五）我が部隊は（四百八十一）日に鄭州を陷落し、（四百六十六）我が部隊は（四百八十二）日に鄭州を陷落し、（四百六十七）我が部隊は（四百八十三）日に鄭州を陷落し、（四百六十八）我が部隊は（四百八十四）日に鄭州を陷落し、（四百六十九）我が部隊は（四百八十五）日に鄭州を陷落し、（四百七十）我が部隊は（四百八十六）日に鄭州を陷落し、（四百七十一）我が部隊は（四百八十七）日に鄭州を陷落し、（四百七十二）我が部隊は（四百八十八）日に鄭州を陷落し、（四百七十三）我が部隊は（四百八十九）日に鄭州を陷落し、（四百七十四）我が部隊は（四百九十）日に鄭州を陷落し、（四百七十五）我が部隊は（四百九十一）日に鄭州を陷落し、（四百七十六）我が部隊は（四百九十二）日に鄭州を陷落し、（四百七十七）我が部隊は（四百九十三）日に鄭州を陷落し、（四百七十八）我が部隊は（四百九十四）日に鄭州を陷落し、（四百七十九）我が部隊は（四百九十五）日に鄭州を陷落し、（四百八十）我が部隊は（四百九十六）日に鄭州を陷落し、（四百八十一）我が部隊は（四百九十七）日に鄭州を陷落し、（四百八十二）我が部隊は（四百九十八）日に鄭州を陷落し、（四百八十三）我が部隊は（四百九十九）日に鄭州を陷落し、（四百八十四）我が部隊は（五百）日に鄭州を陷落し、（四百八十五）我が部隊は（五百一）日に鄭州を陷落し、（四百八十六）我が部隊は（五百二）日に鄭州を陷落し、（四百八十七）我が部隊は（五百三）日に鄭州を陷落し、（四百八十八）我が部隊は（五百四）日に鄭州を陷落し、（四百八十九）我が部隊は（五百五）日に鄭州を陷落し、（四百九十）我が部隊は（五百六）日に鄭州を陷落し、（四百九十一）我が部隊は（五百七）日に鄭州を陷落し、（四百九十二）我が部隊は（五百八）日に鄭州を陷落し、（四百九十三）我が部隊は（五百九）日に鄭州を陷落し、（四百九十四）我が部隊は（五百十）日に鄭州を陷落し、（四百九十五）我が部隊は（五百十一）日に鄭州を陷落し、（四百九十六）我が部隊は（五百十二）日に鄭州を陷落し、（四百九十七）我が部隊は（五百十三）日に鄭州を陷落し、（四百九十八）我が部隊は（五百十四）日に鄭州を陷落し、（四百九十九）我が部隊は（五百十五）日に鄭州を陷落し、（五百）我が部隊は（五百十六）日に鄭州を陷落し、（五百一）我が部隊は（五百十七）日に鄭州を陷落し、（五百二）我が部隊は（五百十八）日に鄭州を陷落し、（五百三）我が部隊は（五百十九）日に鄭州を陷落し、（五百四）我が部隊は（五百二十）日に鄭州を陷落し、（五百五）我が部隊は（五百二十一）日に鄭州を陷落し、（五百六）我が部隊は（五百二十二）日に鄭州を陷落し、（五百七）我が部隊は（五百二十三）日に鄭州を陷落し、（五百八）我が部隊は（五百二十四）日に鄭州を陷落し、（五百九）我が部隊は（五百二十五）日に鄭州を陷落し、（五百十）我が部隊は（五百二十六）日に鄭州を陷落し、（五百十一）我が部隊は（五百二十七）日に鄭州を陷落し、（五百十二）我が部隊は（五百二十八）日に鄭州を陷落し、（五百十三）我が部隊は（五百二十九）日に鄭州を陷落し、（五百十四）我が部隊は（五百三十）日に鄭州を陷落し、（五百十五）我が部隊は（五百三十一）日に鄭州を陷落し、（五百十六）我が部隊は（五百三十二）日に鄭州を陷落し、（五百十七）我が部隊は（五百三十三）日に鄭州を陷落し、（五百十八）我が部隊は（五百三十四）日に鄭州を陷落し、（五百十九）我が部隊は（五百三十五）日に鄭州を陷落し、（五百二十）我が部隊は（五百三十六）日に鄭州を陷落し、（五百二十一）我が部隊は（五百三十七）日に鄭州を陷落し、（五百二十二）我が部隊は（五百三十八）日に鄭州を陷落し、（五百二十三）我が部隊は（五百三十九）日に鄭州を陷落し、（五百二十四）我が部隊は（五百四十）日に鄭州を陷落し、（五百二十五）我が部隊は（五百四十

社說

浮動購買力の抑制策に就て
特定通貨設定を研究せよ

一

最近の國內經濟を見るに購買力の膨脹が著しく物價騰貴の傾向が顯著であるために、政府當局が之が抑制策に就て考慮を拂ひつゝあることは既報の通りである。

抑々購買力の膨脹は、一般的に言へば通貨の增發と信用の擴張とに因るものであるが、我國の現狀に於ては、通貨の增發は殆んど行はれず、專ら信用の擴張に因るものと見て差支ない。

而して信用の擴張は、一般的に言へば、銀行の貸出增加と預金增加とに現はれるものであるが、特に一般經濟界に於ける購買力の增減を知るには、預金の增減を見るのが最も適當である。

そこで、最近の預金增加の狀況を見るに、昭和十年八月末に於ける全國銀行の預金總額は、前年同月末に比し一億一千萬圓の增加を示し、又日本銀行の預金部預金も、同じく前年同月末に比し一億一千萬圓の增加を示してゐる。

而して、此の增加額は、一般經濟界に於ける購買力の增加を物語るものと見て差支ない。

二

然らば、此の購買力の增加は、何に因るものであるかと言へば、其の一は、財政收支の關係に因るものであり、其の二は、金融關係に因るものである。

財政收支の關係に因るものとは、財政收支の差額が、收入超過であるか、支出超過であるかに因るものであるが、最近の財政收支の關係は、收入超過の狀態にあるから、此の關係に因る購買力の增減は、之を無視して差支ない。

從つて、最近の購買力の增加は、金融關係に因るものと見て差支ない。

金融關係に因る購買力の增減は、銀行の貸出增減と預金增減とに因るものであるが、最近の銀行の貸出增減は、之を無視して差支ないから、結局、最近の購買力の增加は、銀行の預金增加に因るものと見て差支ない。

三

銀行の預金增加は、銀行の貸出增加に因るものであるが、銀行の貸出增加は、一般經濟界に於ける資金需要の增加に因るものであるから、結局、最近の購買力の增加は、一般經濟界に於ける資金需要の增加に因るものと見て差支ない。

四

然らば、一般經濟界に於ける資金需要の增加は、何に因るものであるかと言へば、其の一は、生產擴張に因るものであり、其の二は、物價騰貴に因るものである。

生產擴張に因る資金需要の增加は、生產擴張の程度に應じて增加するものであるから、之を抑制することは出來ないが、物價騰貴に因る資金需要の增加は、物價騰貴の程度に應じて增加するものであるから、之を抑制することは出來る。

五

而して、物價騰貴に因る資金需要の增加は、物價騰貴の程度に應じて增加するものであるから、物價騰貴の程度を緩和すれば、之に應じて資金需要の增加を抑制することが出來る。

六

物價騰貴の程度を緩和するには、通貨の增發を抑制するか、信用の擴張を抑制するか、又は兩者を同時に抑制するかの三つの方法があるが、通貨の增發を抑制することは、財政收支の關係上困難であるから、信用の擴張を抑制するか、又は兩者を同時に抑制するかの二つの方法によるの外はない。

七

信用の擴張を抑制するには、金融機關の貸出增加を抑制するか、又は預金增加を抑制するかの二つの方法によるの外はないが、貸出增加を抑制することは、生產擴張に因る資金需要の增加をも抑制することになるから、之は適當でない。

從つて、預金增加を抑制することが適當であるが、預金增加を抑制するには、預金增加の原因を除去することが必要である。

八

預金增加の原因は、財政收支の關係と金融關係とに因るものであるが、財政收支の關係は、收入超過であるから、之を變更することは出來ない。

從つて、金融關係に因るものを除去することが必要であるが、金融關係に因る預金增加の原因は、銀行の貸出增加であるから、結局、銀行の貸出增加を抑制することが必要である。

九

銀行の貸出增加を抑制するには、日本銀行の貸出を抑制するか、又は銀行の貸出金利を引上げるかの二つの方法によるの外はないが、日本銀行の貸出を抑制することは、金融逼迫を來すから適當でない。

從つて、銀行の貸出金利を引上げることが適當であるが、銀行の貸出金利を引上げるには、日本銀行の貸出金利を引上げることが必要である。

十

日本銀行の貸出金利を引上げるには、日本銀行の貸出を抑制することが必要であるが、日本銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要である。

十一

日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要であるが、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要である。

十二

日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要であるが、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要である。

十三

日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要であるが、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要である。

十四

日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要であるが、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要である。

十五

日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要であるが、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要である。

十六

日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要であるが、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要である。

十七

日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要であるが、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要である。

十八

日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要であるが、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要である。

十九

日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要であるが、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要である。

二十

日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要であるが、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制するには、日本銀行の貸出を受けてゐる銀行の貸出を抑制することが必要である。

甘蔗買收價格値上

當然畑作甘蔗にも適用か

在來種は成育良好

一期稻作收量調査

臺南州農試の

臺南州農事試驗場の第一期稻作收穫豫想調査は左表の通りである。

△收量調査

（一甲當）

品種		收量	比較
在來種	本年	玄米 二、六四〇斤	
	前年	玄米 二、六八〇斤	本年の前年との比較 九八
	平年	玄米 二、六三〇斤	本年の平年との比較 一〇一
一五號	本年	玄米 二、八八〇斤	
	前年	玄米 二、八八〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 二、八三〇斤	本年の平年との比較 一〇二
陸稻	本年	玄米 一、三〇〇斤	
	前年	玄米 一、三〇〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 一、二八〇斤	本年の平年との比較 一〇二

（ハクター一當）

品種		收量	比較
在來種	本年	玄米 四、一六〇斤	
	前年	玄米 四、二〇〇斤	本年の前年との比較 九九
	平年	玄米 四、一〇〇斤	本年の平年との比較 一〇一
一五號	本年	玄米 四、五〇〇斤	
	前年	玄米 四、五〇〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 四、四〇〇斤	本年の平年との比較 一〇二
陸稻	本年	玄米 二、〇三〇斤	
	前年	玄米 二、〇三〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 二、〇〇〇斤	本年の平年との比較 一〇二

△農事中心點

（一甲當）

品種		收量	比較
在來種	本年	玄米 二、六四〇斤	
	前年	玄米 二、六八〇斤	本年の前年との比較 九八
	平年	玄米 二、六三〇斤	本年の平年との比較 一〇一
一五號	本年	玄米 二、八八〇斤	
	前年	玄米 二、八八〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 二、八三〇斤	本年の平年との比較 一〇二
陸稻	本年	玄米 一、三〇〇斤	
	前年	玄米 一、三〇〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 一、二八〇斤	本年の平年との比較 一〇二

（ハクター一當）

品種		收量	比較
在來種	本年	玄米 四、一六〇斤	
	前年	玄米 四、二〇〇斤	本年の前年との比較 九九
	平年	玄米 四、一〇〇斤	本年の平年との比較 一〇一
一五號	本年	玄米 四、五〇〇斤	
	前年	玄米 四、五〇〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 四、四〇〇斤	本年の平年との比較 一〇二
陸稻	本年	玄米 二、〇三〇斤	
	前年	玄米 二、〇三〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 二、〇〇〇斤	本年の平年との比較 一〇二

△收量調査

（一甲當）

品種		收量	比較
在來種	本年	玄米 二、六四〇斤	
	前年	玄米 二、六八〇斤	本年の前年との比較 九八
	平年	玄米 二、六三〇斤	本年の平年との比較 一〇一
一五號	本年	玄米 二、八八〇斤	
	前年	玄米 二、八八〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 二、八三〇斤	本年の平年との比較 一〇二
陸稻	本年	玄米 一、三〇〇斤	
	前年	玄米 一、三〇〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 一、二八〇斤	本年の平年との比較 一〇二

（ハクター一當）

品種		收量	比較
在來種	本年	玄米 四、一六〇斤	
	前年	玄米 四、二〇〇斤	本年の前年との比較 九九
	平年	玄米 四、一〇〇斤	本年の平年との比較 一〇一
一五號	本年	玄米 四、五〇〇斤	
	前年	玄米 四、五〇〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 四、四〇〇斤	本年の平年との比較 一〇二
陸稻	本年	玄米 二、〇三〇斤	
	前年	玄米 二、〇三〇斤	本年の前年との比較 一〇〇
	平年	玄米 二、〇〇〇斤	本年の平年との比較 一〇二

臺灣工業化指導に援助

內地有力實業家を招聘

【東京發同盟】臺灣總督府殖產局長は、臺灣工業化の指導に關する件に就き、內地有力實業家を招聘する豫定であるが、其の人選は、目下內定中であるが、其の一は、日本窒素肥料會社社長野口遵氏、其の二は、日本曹達會社社長中野友禮氏、其の三は、日本電力會社社長松永安左衛門氏、其の四は、東京電燈會社社長菅原通敬氏、其の五は、東京瓦斯會社社長小林一三氏、其の六は、日本製鋼所會社社長菊池恭三氏、其の七は、日本鑛業會社社長久原房之助氏、其の八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木忠治氏、其の九は、日本曹達會社專務取締役大久保恒次氏、其の十は、日本電力會社專務取締役木村清氏、其の十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石元治郎氏、其の十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合良成氏、其の十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉正恒氏、其の十四は、日本窒素肥料會社專務取締役野口一氏、其の十五は、日本曹達會社專務取締役中野一氏、其の十六は、日本電力會社專務取締役松永一氏、其の十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の十八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の十九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二十は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二十一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二十二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二十三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二十四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二十五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二十六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二十七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二十八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二十九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三十は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三十一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三十二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三十三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三十四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三十五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三十六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三十七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三十八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三十九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の四十は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の四十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の四十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の四十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の四十四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の四十五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の四十六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の四十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の四十八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の四十九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の五十は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の五十一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の五十二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の五十三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の五十四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の五十五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の五十六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の五十七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の五十八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の五十九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の六十は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の六十一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の六十二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の六十三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の六十四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の六十五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の六十六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の六十七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の六十八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の六十九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の七十は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の七十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の七十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の七十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の七十四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の七十五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の七十六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の七十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の七十八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の七十九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の八十は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の八十一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の八十二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の八十三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の八十四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の八十五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の八十六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の八十七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の八十八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の八十九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の九十は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の九十一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の九十二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の九十三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の九十四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の九十五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の九十六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の九十七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の九十八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の九十九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百十は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百十一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百十二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百十三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百十四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百十五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百十六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百十七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百十八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百十九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百二十は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百二十一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百二十二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百二十三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百二十四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百二十五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百二十六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百二十七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百二十八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百二十九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百三十は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百三十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百三十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百三十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百三十四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百三十五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百三十六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百三十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百三十八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百三十九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百四十は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百四十一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百四十二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百四十三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百四十四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百四十五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百四十六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百四十七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百四十八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百四十九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百五十は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百五十一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百五十二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百五十三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百五十四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百五十五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百五十六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百五十七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百五十八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百五十九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百六十は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百六十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百六十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百六十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百六十四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百六十五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百六十六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百六十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百六十八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百六十九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百七十は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百七十一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百七十二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百七十三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百七十四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百七十五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百七十六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百七十七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百七十八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百七十九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百八十は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百八十一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百八十二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百八十三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百八十四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百八十五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百八十六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百八十七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百八十八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百八十九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百九十は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百九十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百九十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百九十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の百九十四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の百九十五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の百九十六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の百九十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の百九十八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の百九十九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百十は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百十一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百十二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百十三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百十四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百十五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百十六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百十七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百十八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百十九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百二十は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百二十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百二十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百二十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百二十四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百二十五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百二十六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百二十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百二十八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百二十九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百三十は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百三十一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百三十二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百三十三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百三十四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百三十五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百三十六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百三十七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百三十八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百三十九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百四十は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百四十一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百四十二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百四十三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百四十四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百四十五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百四十六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百四十七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百四十八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百四十九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百五十は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百五十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百五十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百五十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百五十四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百五十五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百五十六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百五十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百五十八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百五十九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百六十は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百六十一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百六十二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百六十三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百六十四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百六十五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百六十六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百六十七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百六十八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百六十九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百七十は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百七十一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百七十二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百七十三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百七十四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百七十五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百七十六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百七十七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百七十八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百七十九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百八十は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百八十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百八十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百八十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百八十四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百八十五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百八十六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百八十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百八十八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百八十九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百九十は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百九十一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百九十二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百九十三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の二百九十四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の二百九十五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の二百九十六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の二百九十七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の二百九十八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の二百九十九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百十は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百十四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百十五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百十六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百十八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百十九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百二十は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百二十一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百二十二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百二十三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百二十四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百二十五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百二十六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百二十七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百二十八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百二十九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百三十は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百三十一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百三十二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百三十三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百三十四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百三十五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百三十六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百三十七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百三十八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百三十九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百四十は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百四十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百四十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百四十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百四十四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百四十五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百四十六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百四十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百四十八は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百四十九は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百五十は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百五十一は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百五十二は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百五十三は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百五十四は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百五十五は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百五十六は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百五十七は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百五十八は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百五十九は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百六十は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百六十一は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百六十二は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百六十三は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百六十四は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百六十五は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百六十六は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百六十七は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百六十八は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百六十九は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百七十は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百七十一は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百七十二は、日本製鋼所會社專務取締役河合一氏、其の三百七十三は、日本鑛業會社專務取締役小倉一氏、其の三百七十四は、日本窒素肥料會社專務取締役鈴木一氏、其の三百七十五は、日本曹達會社專務取締役大久保一氏、其の三百七十六は、日本電力會社專務取締役木村一氏、其の三百七十七は、東京瓦斯會社專務取締役白石一氏、其の三百七十八は、日本製鋼所會社專務取締役河

銃後奉公に一億進軍
日比谷で大講演會

"秋だ、月見だな！"
白衣勇士ら季節の贈物、七草に感一入
北陸軍病院に床しい慰問使

同慰問袋雑景(花の盆の盛合せ)大(下)国園内臨軍七の合併常緑樹

東條、及川、小泉三相
國民の道標を獅子吼

御親拜の時刻・遙拜
五穀豐穰、神恩に感謝

十月十七日は神嘗祭の當日に當らせられ、天皇陛下には御親ら新穀を神宮に奉らせられ、又皇太子殿下には賢所に於て御親ら新穀を奉らせられるのであるが、この日は午前十時を以て一億一心國民が不斷感謝の一念を以て敬神を實踐しながらはならないのは勿論にわれ〳〵の直面せる戰も重大なる時である。この秋に當り特に外國に於ける御親拜に準じ左の通り御親拜の時刻を定められたから昭和十三年十月三日に發せられた勅語の趣旨に則り益々敬神の念を厚くし神恩に感謝し奉るとともに國家の隆昌と國民の康福とを祈念せられんことを望む

十七日　午前十時

體力の現狀を把握
對策樹立が目的
青年體力檢査の趣旨　土光衛生課長談發表

奮起せよ壯年層
近く奉公壯年團則決定

非常の際に青年動員
臺北市で招集規程確立

明治橋附近から
先住民の石器發掘
また學界に話題・一つ

借國妻事那支
月十四日～月十一日
まで
便郵局賣出し

臺北秋競馬
第五日目成績

けふの勝馬予想

ラジオ朝

映畫と演藝

臺北秋競馬

十月五日（日曜日）
投票券拾円
主催　台北州畜産會

(四) A 昭和十六年十月五日 (日曜日) 臺灣日日新報 第一萬四千九百三十四號 (第三種郵便物認可)

各地綜合版

實る秋に奏でる凱歌
各市郡で〝豐年祭〟
臺南神社大祭の佳日に

臺南州下

【臺南電話】臺南州下各地では秋晴の好天候恵まれ豐年祭に際して各地神社に參拜する者多く殊に臺南神社大祭の佳日に當り各地より參拜者陸續として詰めかけ市内は一時雑踏を極めてゐる